

東北大学災害科学国際研究所 勉強会
「南海トラフ沿い大規模地震に関する
予測的情報に基づく社会対応のあり方」

成果・報告レポート集

2018年4月

本レポート集は、2016年12月から2018年2月にかけて東北大学災害科学国際研究所内で開催された勉強会「南海トラフ沿い大規模地震に関する予測的情報に基づく社会対応のあり方」（略称：南海トラフ地震予測対応勉強会）で取り上げた内容に関し、勉強会の参加者が、論点の整理や論考の展開をした成果をとりまとめたものである。

目次

南海トラフ地震予測対応勉強会報告レポート発刊によせて・・・・・・・・・・今村文彦	1
所内勉強会「南海トラフ沿い大規模地震に関する予測的情報に基づく社会対応のあり方」 の概要とまとめ・・・・・・・・福島 洋・森口周二・久利美和・中鉢奈津子・安倍 祥	2
南海トラフに発生する地震の予測可能性について・・・・・・・・・・松澤 暢	9
南海トラフ地震発生予測時の企業・組織の行動と可能な事前準備・・・・・・・・丸谷浩明	17
地震の事前情報の役割と災害軽減に役立てるための展望・・・・・・・・福島 洋	29
研究者と市民の災害科学情報コミュニケーションー特に学術とメディアの連携 による社会発信に着目してー・・・・・・・・・・中鉢奈津子・久利美和	37
不確定要素を含む災害情報の発信：火山活動での事例を参考に・・・・・・・・久利美和	49
災害研究における行動意向調査の注意点・・・・・・・・・・奥村 誠	55
不確実性を含む防災情報の有用性・・・・・・・・・・森口周二	60
情報をどのように伝えるか：認知バイアスと恐怖アピール・・・・・・・・邑本俊亮	63
確率的事象のリテラシー向上へー脳科学からの示唆・・・・・・・・杉浦元亮	66
命のリスクコミュニケーション・・・・・・・・・・江川新一	72
災害医療の現状と南海トラフ地震へ向けた医療対策・・・・・・・・佐々木宏之	79
災害対応における SNS の有効性と限界ー東日本大震災発生から7年をふりかえってー ・・・・・・・・・・佐藤翔輔	84
東日本大震災教訓活用を目的にした教材システム・・・・・・・・佐藤翔輔・今村文彦	88

南海トラフ地震予測対応勉強会報告レポート発刊によせて

災害科学国際研究所は発足から 6 年を経過する中、災害対応サイクルでの各フェーズに応じた災害科学の深化と地域で実践できる防災学の研究活動のミッションとして展開して参りました。その上で、得られたデータや知見を今後の防災や減災に貢献するためには、発生が懸念されている南海トラフでの地震および津波などをターゲットにしなければならないと考えています。従来より、南海トラフも含めて影響が予想される地域については、災害研の個々の取組の中で、研究成果の報告・発信、学校や地域での啓発活動、さらには、地域での避難訓練などを協力・企画・実施させて頂いております。しかしながら、今回は所内で横断的に議論をし、さらなる貢献を検討するために、南海トラフ地震予測対応勉強会というワーキンググループ(WG)を立ち上げていただきました。当に、本所が目指しているプロジェクト研究エリア・ユニット制に対応して、地域に必要なニーズを汲み取り挙げながら実践を模索する取組になります。現在、国や学会の議論でも、南海トラフ沿いの地震観測・評価に基づく防災対応検討ワーキンググループなどが立ち上がり、具体的な活動も始まりました。南海トラフでは過去の歴史的活動の記録や現在の地震・地殻・津波などの観測網を活用した予測体制に加えて、各地での避難体制、緊急・救命体制などの再点検と改善を目指す必要があると考えます。今回の WG での活動が少しでも減災社会のための課題の解決への一助となることを祈念しております。

今村文彦

東北大学災害科学国際研究所長 津波工学教授

平成 30 年 4 月